

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 日本独文学会 ドイツ語教育部会

(代表者 太田 達也 会員数 約530人)

T E L 03-5950-1147

#### 1 前 文

(本試験の評価書に同じ。)

試験のバランスを見るために、追・再試験問題は同年度の本試験と比較する。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

大問の構成(大問1～7)、出題形式、総設問数(全51問)、配点とも、本試験と同じである。

ドイツ語総語数(のべ語数)は2,030、総語彙数(単一語の初出回数)は647である。本試験は総語数1,764、総語彙数584であった。語数・語彙数が少なければいいとも一概には言えず、語数が多い場合には、文意を特定の語彙に依存せず文脈で(説明的に)示しやすくできる面もあるため、一般的に読みやすいテキストであったという印象である。

本評価で使用している過去の出題語彙データベースに蓄積している語、一般的独和辞典(見出し語6～8万語程度)で基礎語彙として扱われている語、基礎語彙を組み合わせた合成語、固有名詞、国際語、注付きの語、派生語のうち形態素の意味からその意味が容易に想像できる語などを除くと、やや難度が高いと思われる語の数は6語であった(★)。

★ abfallen, Abwasser, befragen, daraufhin, motivieren, Strohalm

なお、これら6語とも、一般的な独和辞典において基礎語彙扱いではないが見出し語としては挙げられている。このうち、motivierenは、対応する名詞Motivationが英語と綴りも同じで推測が可能だろうと言えなくもないが、この動詞を知らない受験者にとってはmotiv-からMotivationを推測するのは難しいかもしれない。Strohalmに関しては、第5問の問1(31)で正答を選ぶために必須の語彙であり、基本語彙ではない語をキーとする出題にはなっているが、選択肢のイラストおよび周辺語彙(mit, ohne, Löffel)がヒントになっている。abfallen, Abwasserは、接頭辞のab-/Ab-の意味(「脱落・分離」)からおおよその意味はとれそうである。また、abfallenはそのすぐ直後にabnehmenでも言い換えられており、難語を言い換えようとする出題者の工夫は評価できる。befragenは非分離前綴りのbe-をとって基礎動詞fragenの意味で想像してみて意味がほぼ変わらないため解答には大きく影響はしないと思われる。daraufhinは、いい語彙選択と思われるが、やや難語のため、undなどでシンプルに文をつなぐこともできたかもしれず、文の流れを掴むのに重要な語であればあるほど易しい語彙で表せるのであればそのほうが望ましい。

本試験との比較で言うと、本試験よりも総語数が多く、難語は少なかった。総語数が少ないと、読むための実時間は減っても、語彙ひとつひとつの意味に依存する度合いが高まるため、受験者は知らない単語に出会った場合に文意が取りづらい。この場合、出題者は語注を多めにつけるなどする工夫も必要になる。なお、語注の数は、本試験は3つ(うち2つはドイツ語の語彙そのものではなく専門的概念についての注記)、追試験においては8つであった。

以下、大問ごとの評価を記す。

第1問 設問数(7)、配点(21)及び問題構成、設問、難度も本試験と同等である。

問1 名詞に含まれるtの発音を問う問題である。選択肢中唯一tを[ts]と発音する

Kommunikationが正解であり、普段から正確な発音を心掛けて学習しているかを問う良問である。

問2 母音üの長短を問う問題である。子音連鎖の前は短母音、ßの前は長母音または二重母音であるという基本的な発音知識を問う良問である。

問3 名詞と形容詞の派生語のペアの中から、アクセントの位置が同じものを選ばせるという、正確な発音知識を問う良問である。

問4 選択肢にある動詞全てに含まれる語幹の短母音aのうち、3人称単数が主語の場合に別の母音に変化するものを選ばせる、動詞の現在人称変化の正確な知識を問う問題である。stammenは頻出動詞ではないものの、基本語彙であるhaltenが正解として設定されているため、難度は高くない。

問5 選択肢にある動詞の語幹に含まれる短母音eのうち、過去形にした場合に別の母音に変化するものを選ばせる問題である。正解のkennenの不規則な過去形を確実に覚えるとともに、setzen(規則動詞)と、それに対応する自動詞sitzen(不規則動詞)の過去形を混同しやすいため、正確に知っておく必要がある。良問である。

問6 名詞を複数形にする際、語に含まれる母音aが変化するものを選ぶ問題である。選択肢として挙げられている名詞はどれも日常でよく使用されるもので、語彙の正確な知識を問うための適切な出題といえる。

問7 グループに分類された名詞に対し、選択肢の中からそれに属さない名詞を選ぶ、工夫された良問である。出題に使用された名詞の難度も適切である。

第2問 設問数(8)、配点(24)、出題形式のいずれも本試験と同様である。基本的な文法や語彙の知識を問うパートである。全体として適切な難度であると評価する。

問1 本動詞backenの目的語であるKuchenが4格の形になることに気づき、選択肢の中で唯一の4格形である②を選ぶ。Kuchenの文法上の性の知識を必要とせず解くことができる。なお、fürは4格支配の前置詞であるが、このwas für ~という表現においてはfürの格支配は無視される。Was für ein Kuchen ist das? が正答となるようにするなど、格をずらした出題でもよかった。

問2 sich streitenの意味から、再帰代名詞を選択させる問題である。出題の狙いも明確である。

問3 適切な関係代名詞を選択させる問題である。関係代名詞が前置詞vonの目的語になっているため、vonが3格支配であるという知識が必要とされる。先行詞Politikerinは基本語彙である。良問である。

問4 auf etw<sup>4</sup> ankommenという熟語(ここでは、語彙的に、適切な前置詞を選ばせる)の知識を問うている。本試験でも問4は適切な前置詞を選ばせる同等の問題であった。

問5 本動詞übersetztが過去分詞であることに気づけば、選択肢に挙がっている4つの助動詞の中から、過去分詞と共起できる受け身のwerdenと完了のhabenまで絞ることができる。最後は、文全体の意味として受動的でなければならないことから受け身のwerdenを選ぶ。基本的かつ重要な文法知識を問う良問である。

問6 sein支配の完了形の知識を問うている。出題の狙いも明確である。

問7 副詞が最上級で用いられるときにはam + ...stenの形になる知識を問うている。出題の狙いも明確である。

問8 ab und zuという成句の知識を問うている。hin und zurück(乗車券を購入する場面。本試験で出題されている)やzusammen oder getrennt(飲食店での場面)のように対概念をなし、かつ使用場面も明らかな成句とは異なり、成句としての重要度は高くなく、それゆえ設問の

難度も高い。

第3問 本試験同様、設問数は(4)、配点(20)である。出題形式は6つの選択肢から5つを選び空欄を補う形式である。語彙の選択と難度は適切である。

問1 先行詞ein Ferienhausに対応する関係副詞woから始まる副文を、正しい語順で作れるかを問う基本的な問題である。

問2 nachdemから始まる副文を現在完了形で作り、主文は話法の助動詞から始められるか(主文の定動詞第二位)を問う良問である。

問3 原因と結果を表すso dass構文を作ること気づかせ、dass以下の副文を話法の助動詞を含み、正しい語順で作れるかを問う良問である。

問4 この設問で正解の鍵となるのが(1)zu不定詞句、(2)4格目的語を意味上の主語とする使役の助動詞lassen、(3)話法の助動詞möchteの3つと、一文に盛りこむには多い印象がある。本試験よりも難度が高い。

第4問 設問数(8)、配点(40)は本試験と同じであり、形式は2つのダイアログの内容理解を問うものになっている。主人公が1年間の留学経験を語る内容と、帰国後に知り合ったタンデムパートナーとの会話であり、受験者はドイツ語学習の先にある留学をイメージしながら解けるといって評価できる。語彙の選び方は妥当である。

問1 留学を終えて研究室を訪問したという状況に合う会話を選ぶ問題である。このような口語表現にも慣れてほしいと願う出題者の意図を感じる良い問題である。

問2 会話の内容を正しく理解できれば、正解を選べるであろう。anderthalb Stundenは難度が高い。

問3 ①が正解であるが、日常表現を含むため、やや難度は高い。

問4 直前の会話を正しく理解すれば、正解を選ぶことができる。

問5 「ドイツでは自転車も右側通行であることを知らずに他の自転車と衝突した」という話から、Shoは左レーンを走ってしまっており、右レーンを走っていた他者と正面衝突したということが推測できたうえで、状況を表すイラストを選ぶ大変興味深い問題である。しかし、言語能力とは関係のない空間認識能力(図面上の左右の認識)も必要とされるため、図の上下が反対のほうがよかったのではないか。

問6 下線部⑨のstören、選択肢のärgerlichの意味を知らなければ解けないため、やや難度は高い。

問7 選択肢の動詞の意味を類推するのは容易ではない。日常的によく出てくる表現に慣れてほしいという意図は感じられる。ただし、正解以外の選択肢にも難語が含まれており、難度は高めである。

問8 全体の流れを把握できれば、正解を選ぶことができる。最後に全体の内容理解を問うという意味で、良い問題である。

第5問 設問数(6)、配点(30)は本試験と同じである。テキストは、海ごみやマイクロプラスチックによる海洋汚染と各自が実践する日常的な環境保護行動についての母娘のカフェでの会話と、スマートフォン上の関連記事である。会話テキストは40行、約220語、関連記事は10行72語で、総語数は本試験より約10語少ない。登場人物2人の会話を中心とした構成と会話内容を正確に把握する能力を試す点は本試験と変わらない。ドイツ語圏の日常会話で持ち上がる話題についても理解できるよう工夫が凝らされている。一見すると本試験に比べ難度がやや高い印象をもつが、ストーリー展開は分かりやすく、使用語彙・表現は概ね平易であり、昨今日本でも話題に挙がるトピックであるため受験者にも馴染みがある可能性もあることから、難度

は適切であるといえる。

問1 (Papier)Strohalmは難語であるが、前置詞のmit, ohneやLöffelの意味をふまえれば正解することは可能であろう。レストランやカフェでよくある注文のやりとりで、正解の助けとなるようなイラストが用いられた良問である。

問2 スマートフォン上の記事内容の正確な理解が必要となる。問1同様に選択肢をイラストで示したことで意図を読み取りやすい。Schildkröteはやや難度が高い語であるが、選択肢のイラストが手がかりとなっただろう。このほか、Zahnpasta, Abwasser, Meerestiereはやや難度が高い。

問3 スマートフォン上の記事内容に対する評価を表す形容詞を正確に選択する必要がある。選択肢の難度は適切であるが、感覚的に①を選ぶ受験者がいるかもしれない。

問4 母娘の会話で、どちらがどの実践を行っているのかを正確に理解しているかが鍵となる。良問である。

問5 下線部前の母の発話内容を正しく理解していることが求められる。どの選択肢もテキストで言及されているため、正確な理解力が試される。

問6 2人の会話の論点を問う設問である。選択肢で用いられているWasserverbrauch, verbrauchenの意味が分かるかどうかで解答に関わるだろう。難度は適切である。

第6問 設問数(5)、配点(30)は本試験と同一である。語数は約345で本試験より80語多い。

「私」が20年前に目撃した出来事についての物語で、本試験とほぼ変わらない形式で、内容の理解力が試される設問となっている。als ob, etw<sup>4</sup> sinken lassen, verschließen, auffordern, aus Stein sein, vorhaben, jm gefallenといった語彙や慣用表現、過去形や過去分詞を見て動詞の不定形やその意味を追っていければ、出来事の流れを正確に理解することができる。本試験に比べテキストが少し長く、解答に必要な情報が最後の部分に集中していることから、本試験に比べると多少時間を多く要したかもしれないが、内容そのものは本試験よりも平易だったと思われる。

問1 3段落目最後の一文の時制(過去完了形)を正確に理解し、④を正しい時系列(一連の出来事のきっかけ)に落とし込めるかが鍵となる。テキストと選択肢で用いられている動詞が異なるため、言い換え表現を判別できるかも試されている。やや難度が高い。

問2 SonnenbrilleとHutの意味が分かれば正解を選ぶことができる。選択肢をイラストにし、相違点を分かりやすくする工夫がみられる。ただし、判断点が帽子とサングラスの有無なのだから、それ以外の情報が統一されているようなイラストにすべきではないか。

問3 本試験と異なり、問いと選択肢の両方がドイツ語で示されているが、問われていることは明確であり、良問である。2段落目最後の3行を正確に理解し、aus Stein seinの意味が分かるかどうかで鍵である。

問4 問3と同じ問題形式である。問3と同じく、物語の核心を確認させる良問である。aussehenをerscheinenで言い換えていることが分かったと解答できる。

問5 テキスト全般を正確に理解していることが求められる。テキスト1段落目のals obを用いた副文が非現実を表していることを理解しているかを④で問うなど、工夫されている。

第7問 設問数(7)、配点(35)はいずれも本試験と同じで、本文は29行、総語数298語と、本試験(28行、総語数268語)よりはわずかに多いものの、繰り返し現れる表現や構文も含まれていることもあり、量的に同等であるといえる。テキストの題材は、本試験では睡眠の種類と役割を科学的に説明したものであったが、追・再試験では行動の動機付けを趣味のスポーツを例にとって解説したもので、本試験に比べると、より親しみやすい印象である。語彙面ではやや難度が高いものが散見され、文構造についても、本試験との比較で副文やzu不定詞が多く使わ

れているなど、一言一句を正確に理解しようとする、必ずしも容易に理解できるテキストではない。しかし、比較的平易な副文やzu不定詞を繰り返し使ったり、設問の選択肢に理解しやすい表現を使用したりするなどの工夫によって、入試問題として全体的に適切な難度にまとまっているといえる。これらの工夫から、細部にこだわりすぎず、重要な情報に注目しながらテキスト全体の大意を把握する能力を試すという意図が感じられる。また、テキストには出典が挙げられており、受験者の指導や日常の授業に携わる教育関係者にとって大変参考になるという点も、本試験と同じである。

問1 テキスト第2段落に書かれている、成功体験後に動機付けが下がる現象の理由を正確に読み取ることが求められている。正解の鍵となる段落後半部分に、Eifer, verfolgen, benötigen, entsprechendといったやや難度が高い語が続けて登場しているが、段落最後の文が理解できていれば、正解できる。

問2 第3段落の後半部分で説明されている、社会心理学者の提言を理解し、その内容と同じ意味を持つ選択肢を選ぶ問題である。段落中にはPhase, Sozialpsychologe, Zielerreichungなど、受験者にとってなじみが薄いであろう語彙が見られるが、段落最後の文が理解できていれば、正解できる。

問3 高い動機付けを持ち、楽しみながら目標に到達するためには何が必要か、という疑問への答えを第4段落から読み取る問題である。ここでも段落後半部分の理解が問われているが、dass文に前置詞付きの関係文がかかっている文構造やZiele verfolgenといったやや難度の高い表現が含まれているほか、問題文も丁寧に読む必要があるため、難度は高めである。

問4 趣味でスポーツをする場合に、記録の向上に集中しない方がよい理由が説明されている第5段落の内容理解を問うている。段落最後の部分を理解できるかが重要である。zu etw<sup>3</sup> führen, Konfliktという表現が入った①が本文中のbleibt weniger Zeit für andere Lebensbereicheの言い換えであることを見抜くのはやや困難だと思われる。

問5 趣味のスポーツに際して重要だとされていることを選ぶ問題である。第4段落を正確に理解している必要がある。問3で問うているテキスト箇所と重なっているため、問3が正解できていればここも容易に正解が出せるだろう。

問6 本試験第7問の間6と同様に、日本語の選択肢を使って第5段落前半部分の理解を問う問題である。第5段落はこのテキストの中で最も長い段落であり、日本語の選択肢を通じて理解を助けながら、大意が把握できているかを試すという出題者の意図を評価したい。

問7 テキストに合うタイトルを選ばせることで、全体の大意の把握を試す良問である。選択肢のMotivation erhaltenがテキスト本文のum motiviert zu bleibenの言い換えであることが分かれば比較的容易に正解できる。

### 3 ま と め

今年度の本試験と比べると、総語数が多く、難語が少なく、それでいて語注が多めで、親切な作問になっている印象がある。評価委員の中には、追・再試験問題のほうを本試験用に用いてもよかったかもしれないという意見もあった。本試験の評価書で指摘した、コロナ禍中における受験者心理への配慮という点でも適切であった。また、SDGsに関わる環境問題が扱われるなど、日本の高校生にも身近に感じられるテーマ選択がなされており、好印象である。

受験者にとって本試験問題と追・再試験問題で著しい不均衡はなかったと評価する。今後も、受験者の大半が高校生であるという点に留意したテーマ選択等がなされることを期待している。